

## 平成 26 年度 FD 活動のまとめ

総合企画室 FD 活動ワーキンググループ

### はじめに

文部科学省中央教育審議会（平成 17 年 1 月）の答申には、FD の定義・内容に関して以下のように述べられている。

「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」

これとは別に、広義の FD とも言える考えとして、「各教員個々の教育、研究、社会的貢献や管理運営についての機能や能力の開発」として捉えることも可能である。このような考え方では、各教員個々の日々の活動や各種校務そのものが FD であり、教務主事室、学生主事室、寮務主事室や学生相談室など、各部署で行われる各教員に対する資質の啓発を目的とする研修会への参加なども FD であると見なせる。

FD 活動ワーキンググループにおいては、広義の定義では、概念やその活動がとすれば発散しがちであることから、前述の中央教育審議会答申の中にある「組織的な取り組みの総称」という箇所に着目し、平成 26 年度の FD 活動を行うこととした。なお、広義の定義における各種活動についてその重要性を否定するものではない。

### 平成 26 年度 FD 活動

平成 26 年度は、「教育力・教師力の向上」をテーマとし、4 回の FD 研修会を行った。

#### 第 1 回 FD 研修会

前期中間試験 3 日目の 6 月 6 日（金）に、本校メディアホールにおいて 13:30～15:00 に開催した。教員 44 名（63 名中）、職員 2 名が参加した。講師に広島大学大学院教育研究科教授 柳瀬陽介先生をお迎えし、「教師とはどのような存在なのか」をテーマにご講演をいただいた。講演



の中で教育に関する複数のメタファー・アプローチが提示された。その後、教員間でのワークショップを通して経験してきた教育活動をメタファー範疇に分類し、教員自らを内省する手法を試みた。小グループは、活発な意見交換の場となり、教育についての多様なアプローチが報告され、教育とは何かを考察する大変有意義な機会となった。

## 第2回 FD 研修会

前期末試験3日目の7月31日(金)に、本校メディアホールにおいて 13:30～15:00 に開催した。教員 40 名、技術職員 7 名、職員 2 名が参加した。講師に光市立島田中学校教頭福本稔先生を迎え、「これからの授業改善に向けて」をテーマにご講演をいただいた。また、本研修会はネット配信により、大島商船高等専門学校にも配信された。中学生を主とした学力向上・授業改善に向けた国の政策、山口県における学力向上施策、他県と比較した本県の学力的位置づけを示され、高等専門学校としての授業改善方針とは何かをご講演いただいた。義務教育での動向を踏まえ、求められている学力とは何かを考えたいうえで、授業改善を計画する貴重な機会となった。



## 第3回 FD 研修会

後期中間試験初日の11月26日(火)に、本校メディアホールにおいて 13:30～15:00 に開催した。教員 39 名、技術職員 5 名、職員 6 名が参加した。講師にラ・サール中学・高等学校国語科教諭西本志織先生を迎え、具体的な学習・進学指導の事例を交えながらご講演をいただいた。



講演の中で、教員の学生からの求心力の高め方、学校への帰属意識の大切さ、また、先輩後輩の関係性による学習意欲向上への取り組み方等様々な学生へ刺激を与える事例を伺うことが出来た。最高の中で最高の学生を育てる「Best among the Best」という意識の高さを感じさせる講演でした。また、本研修会はネット配信により、宇部工業高等専門学校、大島商船高等専門学校にも配信され、それぞれ 10 名、28 名が参加した。本校の教育目標である「世界に通用する実践力のある開発型技術者」を育成すべく、学習・生活・課外活動における指導について考える貴重な機会となった。

## 第4回 FD 研修会

学年末試験3日目の平成27年2月9日(月)に、本校メディアホールにおいて 13:30～15:00 に開催した。教員 26 名、技術職員 4 名、職員 6 名が参加した。講師に第1回 FD 研修会でも講師を務めて頂いた、広島大学の教育学研究科言語文化教育専攻柳瀬陽介教授を迎え、「授業というコミュニケーション」についてご講演をいただいた。講演では、各教員の授業中における学生とのコミュニケーション手段や、知識の伝達手段、また正確に伝達したかどうかの確認手段を、各グループワークを通して発表し

ていき、教科や専門分野によって様々な意見が挙げられた。それらを踏まえ、授業で学生にどのような経験、思考を積ませるか、そこから授業中のコミュニケーションにより、学生と教員の知識や情報をどのように共有していくのか、ということについて講話を頂いた。高専教育に携わるうえでの、学生対応や教育・授業改善を再考する良い機会となった。また、



本研修会は遠隔講義・会議システム「GI-net（グローバル・イノベーション・ネットワーク）」により、本校以外の中国地区7高専に配信され、総計で101名が受講した。

### その他のFD活動（アクティブラーニング研修会）

平成27年3月4日（水）に、本校第1スタジオ型演習室において13:30～15:30に開催した。32名の教員が出席した。国立高等専門学校機構本部事務室教育研究調査室所属の長岡高専教授の外山茂浩先生と秋田高専准教授の森本真理先生を講師に迎え、「これからの高専教育とアクティブラーニング」と題して講義をして頂いた。講義内容は、これからの高専教育の在り方、アクティブラーニングとは？、アクティブラーニング導入の効果とポイントの3部構成で、最新のアクティブラーニングの手法についての紹介が行われた。その後、ブレインストーミングによる付箋の作成を行うKJ法を用いて、徳山高専の教育上の課題についての解決法を探る試みを例として、ワークショップが行われた。アクティブラーニングを導入する上での重要な知識と情報、手法を得るための貴重な研修会となった。

### まとめ

4回のFD研修会は、「教育力・教師力の向上」に十分に資した内容であったと考えられる。研修会についてのアンケートでは、内容が適切であったかという問いには、80名中44名が満足、22名がやや満足と答えており、今年度の研修の満足度が高かったことがわかる。また、これからの教育活動に役立つかという問いには、19名が大いに役立つそうだ、46名が役立つそうだと答えており、今後の教育に研修会の内容を生かしていこうとする教員がかなり多いことがわかった。研修会に参加して、どのような点がよかったですかという問いには、45名が役立つ情報が得られた、15名がスキルアップにつながった、35名が他の参加者との交流・情報交換が図られたと答えている。これらのことから、平成26年度のFD研修会は、当初目指した「教育力・教師力の向上」に十分に役立つものであると結論される。今後は、得られた情報や知見をもとに、各教員個人が各自の教科や校務について、より深く考察を加え、目的に向かって努力を重ねることが求められる。